

# 平成26年度第9回移動市長室会議録

## (平成26年11月26日)

1 日 時：平成26年11月26日（水曜日）10時～12時15分

2 場 所：筑紫野市総合保健福祉センター

3 出席者：

### 『筑紫野市老人クラブ連合会』

戸田会長、本田事務局長、副会長、理事、専門部員 など（33人）

### 『筑紫野市』

藤田市長、中村健康福祉部長、北橋総務部長、森高齢者支援課長、  
宗貞戦略企画課長、檜木秘書広報課長、焼山高齢者支援課長補佐、  
野坂広報広聴担当係長、眞籠高齢者支援課主査、末吉秘書広報課主任

4 内 容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから平成26年度第9回、通算41回目になります移動市長室を始めさせていただきます。

本日の懇談会は、お手元の次第のとおりに進めさせていただきます。この後、藤田市長の挨拶、戸田会長の御挨拶、出席者皆さんの自己紹介、老人クラブの活動紹介、要望・回答、それから意見交換、最後にお礼の挨拶、この順番で進めさせていただきます。活動紹介では、連合会と専門部、そして美しが丘北いきいき会の活動状況のお話をさせていただきます。本日の懇談内容は、会議録を作成し、公表させていただきます。また、お撮りした写真は、市の広報紙やホームページに掲載をさせていただきます。

では、まず初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、おはようございます。本日は、筑紫野市老人クラブ連合会の皆さんと移動市長室として懇談をさせていただくことになりました。今日ご参加の皆さん方におかれましては、平素から市政の運営にご理解とご協力を賜っておりますことを冒頭に厚く御礼を申し上げます。

さて、戸田会長をはじめ、老人クラブ連合会の皆さん方には、本日大変お忙しいなかに移動市長室の開催にご尽力を賜りましたこと、深く感謝を申し上げます。

先日の老人クラブ主催のシルバーまつりでございましたけれど、大変ご盛会でございました。皆さん方の元気なお姿や日頃の活動の成果が発揮された力作を拝見し、その活力に頼もしさを感じるとともに、私自身、これからの市政運営に向け、大きな励みとさせていただいた次第でございます。

皆様は、日頃から各種の文化・スポーツ活動や地域ボランティアの活動に積極的に取り組まれ、老人クラブの振興と高齢者福祉の向上に貢献をいただいております。また、市が行う事業に積極的に参加していただく他に、介護保険運営協議会等の委員として積極的なご意見をいただくなど、高齢者の先頭に立ってご活躍いただいておりますことに心から敬意を表します。

本日は、活動についての説明や課題をお聞きしながら懇談をさせていただきますので、是非、積極的なご意見をお聞かせいただきますようお願いを申し上げます、私の挨拶と代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○（事務局） 続きまして、老人クラブ連合会の戸田会長、よろしく申し上げます。

○（戸田会長） 皆さん、おはようございます。平素から、筑紫野市老人クラブ連合会の事業推進に当たりまして、藤田市長をはじめ、市行政当局の皆さん方の特段の御支援と御理

解を賜りまして、まことにありがとうございます。ここに厚く御礼を申し上げます。

このたびは、移動市長室を開催していただきまして、始終、御高配を賜りましたことに對しまして、まことにありがとうございます。重ねて厚く御礼を申し上げます。

老人クラブといたしましては、3つの大きな柱で活動を進めさせていただいております。これは、全国老人クラブ連合会発足からこの運動の方針でございます。まず1つは健康、2つは友愛、3つは奉仕ということで、全ての事業が、健康、友愛、奉仕という中に入っております。何が何でも健康でなければ何もできません。

現在は、4人に1人が高齢者ということでございます。今までは高齢者と言っていたのですけれど、今はもう超高齢者、人生100年ということになっております。そういうことで、まず、何が何でも健康。平均寿命は結構延びております。健康寿命を延ばしていかなくちゃなりません。それにちなんで、老人クラブも各種活動を積み重ねております。今後ともその精神にのっとして、この運動をさらに充実させて進めていきたいと思っております。

市の行政当局の皆さん方には多大なる御迷惑等々はおかけするかと思っておりますが、今後ともよろしく御支援をいただくことをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

- （事務局） 続きまして、出席者の自己紹介を行わせていただきます。まず市役所側から行います。司会進行を務めさせていただきます秘書広報課の檜木です。
- （中村健康福祉部長） 健康福祉部長をしております中村です。日頃から老人クラブ連合会の皆様には、子どもたちや高齢者の見守り活動や環境整備活動など地域での活動に本当に積極的に取り組んでいただいていることに深く感謝申し上げます。
- （北橋総務部長） 今年の4月から総務部長を務めさせてもらっています北橋です。
- （高齢者支援課） 高齢者支援課長の森です。老人クラブの皆様の窓口となっておりますので、何かありましたら、ご相談等をこちらにしてください。
- （戦略企画課） 戦略企画課長の宗貞です。
- （高齢者支援課） 高齢者支援課課長補佐の焼山です。
- （高齢者支援課） 高齢者支援課の眞籠です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当係長の野坂です。
- （事務局） 続きまして、老人クラブの皆様、お願いします。
- （副会長） 二日市東地区の会長の久保です。市老連では体育部に、所属は東新町です。

- （副会長） 宮原靖紘です。二日市西地区の会長をさせていただいています。所属は大門老人クラブです。
- （副会長） 福岡県老人クラブの理事ならびに二日市西地区の女性部長をしております松永です。
- （理事） 筑紫地区の老人クラブの井元です。
- （本田事務局長） 市老連の事務局長をしております本田です。所属は針摺東老人クラブですが、宝満会という愛称で会員を募っております。
- （副会長） 山口老人クラブ連合会の大山です。市老連では総務部を担当しています。所属単位クラブは針摺老人クラブです。針寿会ということで活動しています。
- （理事） 同じく山口地区の女性部長の早川綾子です。
- （副会長） 今年の4月から御笠の老人クラブの会長をさせていただいております、大石の市川正博です。
- （理事） 御笠老連女性部長をしております鬼木弘子です。所属は西吉木です。
- （副会長） 山家の会長を務めさせていただいております藤原です。それと山家中央の会長も務めておりますけども、山家は1単位しかございません。現状がそういう状況になっておりますので、役割としては多少不行き届きな点もあると思っておりますけど、よろしく願いします。
- （理事） 山家地区の女性部長をしております小野です。今、会長がおっしゃったように、非常に過疎化した地区で、単位クラブも減ってしまい、ただいまは山家中央区だけでやっております。どうぞ皆様ご協力のほどお願いいたします。
- （副会長） 筑紫地区老人クラブ連合会および美しが丘北老人クラブの会長を務めさせていただいております古城戸です。市老連では文教部委員長として業務をさせていただいております。
- （専門部員） 山口地区、所属は石崎の井上です。
- （専門部員） 龍時雄です。校区名は御笠地区です。クラブ名は原の会長をしています。
- （専門部員） 御笠の下阿志岐の会長をしております船越です。
- （専門部員） 塔原の会長をしています萩原です。塔原クラブは愛称として、老後を楽しく、皆さんとともに生きようじゃないかとそういう意味で、楽生会としております。なお、二日市西連合会の体育部員をやっています。そして、ゲートボールあるいはグラウンドゴルフをともに一緒に楽しくやっております。

- （専門部員） 二日市西地区、大坪町、会長の樋渡實です。体育部を兼ねて活躍させていただいています。
- （専門部員） 筑紫地区の体育部員です。それから筑紫第一老人クラブの会長を併せてやっております飯野です。
- （専門部員） 御笠地区体育部長ならびに東吉木の老人クラブ会長をしております福住博正です。
- （単位クラブ会長） 御笠地区西吉木の会長をしております田代です。
- （単位クラブ会長） 皆川哲郎です。上阿志岐西の老人クラブの会長をさせてもらっています。御笠老連においては、副会長をさせてもらっております。
- （単位クラブ会長） 中阿志岐老人会の早田です。
- （専門部員） 紫が丘の佐々木です。
- （専門部員） 二日市西の上古賀の山田です。
- （専門部員） 岩佐嘉久です。美しが丘南の老人クラブの会長をしております。部会は総務部会です。
- （専門部員） 光が丘熟年の会と称しております老人クラブの会長をしております。総務部会です。森山です。
- （専門部員） 天山老人クラブの中村です。私も4月から老人クラブ何もわからないままやっているのですが、「天山は男性はいないの？」と言われ、「私が男になってます」ということで、老人会長を引き受けさせていただきます。
- （専門部員） 二日市東地区の京町北老人クラブの会長をしております中原です。文教部会に属しております。
- （単位クラブ会計） 宮田むつみ会会長で文教部会の野鶴の代理で、会計をやっている木元です。
- （専門部員） 高井です。老人クラブは二日市西地区、湯町に属しています。文教部会の部員として、囲碁のことや「椿山」を担当しています。
- （専門部員） 武石です。二日市西地区文教部員をさせていただきます。所属は六反です。
- （専門部員） 増田です。山口地区の老人クラブの副会長をさせてもらっています。単位クラブは、若葉中原地区の老人会長です。
- （事務局） 皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、活動報告に入らせていただきます。連合会、それから専門部のお話を本田事務局長からさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いします。

○（本田事務局長） 事務局長の本田です。本日は移動市長室に当連合会を御指名いただきまして、本当にありがとうございます。こういう説明させていただく場が日ごろはないのですが、そういう場を設けていただきまして、本当にありがたく思っております。

それで、今日説明させていただきますことについては、パワーポイントを準備していただいておりますので、それに基づいて御説明させていただきますが、二部にわかれており、一部は、当連合会の行事を主体に私から説明させていただきます。それから各単位クラブ、今60ございますが、60の単位クラブは大体同じような内容の行事をしております。したがって、代表して筑紫地区の古城戸会長から単位クラブの活動内容につきまして御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、私たちの1年間の行事は、総会から始まります。総会は、毎年5月の第4月曜日を指定しておりますので、これは平成26年度5月26日の総会の模様です。総会は、市老連の場合は代議員制度を取っております。会員が多いものですから、各単位クラブの会長が代議員になっています。60名おります。それから市老連の役員が14名理事でおり、プラス監査役の監事が2名入りまして16名、それで総勢で総会をやっております。

今、戸田会長が御挨拶をしているところですが、戸田会長は、今、10代目に入ります。歴代の会長は、資料に準備しておりますので後ほどごらんいただきたいと思っております。

それで、先ほど戸田会長が申しあげましたように、私たちは健康、友愛、奉仕、これがメインでございまして、この運動は昭和61年からずっと続いてきているのです。基本がその3つに全部集約されますので、今、29年間もずっと同じ、3つの大きな目標に向かって活動しております。

基本的には私たちの活動は、まず会員の一人一人の健康づくりです。健康づくりをメインにして、それからお稽古事など生きがいくくり、生きがいくくりをやることにより心の健康を保つということで、心身ともに健康づくりをするというのがメインです。それによりまして、元気な仲間が輪を広げていく仲間づくり、それができ上がったところで、最後は地域づくりのいわゆる活性化に向かっての協力参加、これが大きなメインテーマです。

それで、写真は第40回となっておりますが、設立は昭和48年ですので、40回目になるのですが、これは、老人会という組織そのものが昭和20年に日本は敗戦となり戦後を迎えるわけですが、昭和21年に千葉県八日市場町というところで組織が立ち上がりま

した。これが日本の最初の老人クラブのスタートだったわけです。

戦後、老人が新しい自分たちの役割分担を求めて組織をつくり上げたのが、いわゆる初めだった。それから、どんどん各地に老人会ができました。それを総括する全国老人クラブ連合会ができたのが昭和37年です。昭和37年度に全国老人クラブ連合会と県の老人クラブ連合会が設立されてスタートしました。そこで全国組織になっていったのですが、昭和38年に老人福祉法ができて、それで健康づくり、生きがいくくり、社会参加、そういうものの推進組織として、老人会が老人福祉法に位置づけられたわけです。

私たちの筑紫野市は、先ほど申し上げましたように昭和48年、ちょうど筑紫野市が市政になりましたのが昭和47年ですので、そのあくる年に私たちのこの組織ができ上がったわけです。会員が現在は3209名おまして、60単位クラブです。会員の構成ですが、男性が約40%、1342名、それから女性が約60%、1867名が、私たちの会員になっております。それから会長の平均年齢が78.3歳、非常に高齢化しているのです。若手が入ってきませんと会長の年齢がどんどん上がっていくわけです。会員の年齢構成比ですが、80%以上が70から80代の方々ばかりです。

ですから、私たちの老人クラブの活動の一環として、非常に大きな課題を迎えておるのですが、若手会員が増えないということ、会員が減少していているという、非常に対象になる高齢者が増えるわりには、老人会は会員が減っていているという実態になっておまして、それに非常に危機感を感じて、全国老人クラブの提唱で、これから100万人増強運動というのを実施することになっています。それに基づいて、筑紫野市では600人を5カ年計画で増やすという運動を展開していております。

それで、ゲートボールですが、平成25年5月17日と10月22日、年2回ゲートボールをやっておりますので、これは全老連が提唱しております三大スポーツの一環として行われます。前は年寄りの競技だということでゲートボールがメインだったわけですが、残念ながら、最近グラウンドゴルフというのができて、そちらのほうにウエートが流れてきております。したがって、ゲートボールがじり貧の状態になっていきつつあるというのが、当連合会だけではなくてほかのクラブも全部、ゲートボールよりもグラウンドゴルフのほうに非常に盛んであるということです。

それで、このゲートボールは、5月17日にやりましたときの最高齢者が男性が92歳。92歳でも、元気で参加していただいている。女性が88歳。80、90になりにましてもアウトドアで競技を楽しんで、健康づくりをしていただいているということです。

それから、次が囲碁大会です。先ほど申し上げた健康づくり、生きがいくくり、その生きがいくくりの一環として囲碁大会をやっておるわけです。参加者は毎年、年2回やっておりますけども、大体41名から44、45名の方が参加しております。大体固定されております。これは、それぞれ実力差があり、段位がありますので、段位、級別にAからCパートの3つにわかれます、それぞれ優勝、準優勝、3位を決定して表彰しているというのが、この囲碁大会の実態です。

次、このように、あふれんばかりに皆さんが参加していただいておりますが、これは一昨日のシルバーまつりと同様、非常に熱気のあるグラウンドゴルフの大会です。6月7日と11月8日、年2回開催させていただいております。

それで、最初はこのようにたくさんの方ですが、256名の方が参加するのです。そうしますと、この諸田のグラウンドを全部使わないといけないという状況になりまして、4面使って、256名の方々が参加していただいております。

これが第1回目です。そのときの最高齢者ですが、92歳の方が参加していただいております。男性は88歳の方ですが、そのようにして、もう90に近い方が元気にグラウンドゴルフに参加していただいております健康づくりに精を出していただいているということです。

このグラウンドゴルフは、ロングが50メートルありますから、小走りで走ったり急いで歩きますから非常に運動になるということで、ゲートボールとはそういう意味でちょっと運動量が違います。したがって、グラウンドゴルフが非常に盛んになっています。

グラウンドゴルフの練習をするのが楽しみで、夜寝ておれんという人がおりました、非常ににぎやかに練習をやって、2回目は各地で予選会が終わって、代表選手が来ていますので、ちょうど半分のメンバー、128名で第2回目をやっております。

次は、ペタンク大会ですが、これは三大競技の1つに入っておりますけども、昨年までは当連合会はしてなかったのです。今年から県老連がペタンク大会をやりますので、当連合会もやろうということで、年に1回、6月6日にペタンク大会をやりました。

それで、初めてやったのですが、23チーム92名の方々が参加していただきました。これは新しい大会ですので、ルールが徹底されていない部分がありまして、11月21日でしたが、スポーツ振興課の御協力をいただいてルールの勉強会をやりました。それで、当連合会もペタンクを大きな大会の1つにしまして、ここで優勝した方々を県老連に代表で出場していただくという方式をとっております。

このシルバーまつり、これは毎年盛会なのです。今年も恐らく900名ぐらいの方が集



まったと思います。799食、弁当を手配いたしましたので、頼んでない方もいっぱい来ていますから、恐らく900人近い方々が参加していただいたと思います。

こういうふうにさげもんとか、これは盆栽コーナーです。それから演芸関係。演芸も非常に皆さん、日ごろから練習をしていただいております、素人離れした演技をしておられます。会員の方々も非常に楽しみにしておられます、当連合会としては一番大きなイベントであります。

今は、年には関係しません。やっぱり私たちも80代の方々ばかりですが、今は8掛け人生と言いますので、まだ60代ぐらいの若さで、とにかく、情熱と感動とあれば歳はとらない、元気な方が非常に多いのです。だから、これが健康年齢を伸ばす一番大きなものだと思います。今、健康年齢が男性は9年、女性は12年のギャップがあります。平均寿命と健康寿命のギャップが9年も12年もあるわけです。そのギャップの間は何かと言いますと、介護保険のお世話になっている期間なのです。ですから、できるだけそれを短くしていくということで、こういうイベントが非常に健康づくりの一環として大きな要素になっています。

これもシルバーまつりです。これは平成25年度の情景ですが、今年はこれよりも多かったです。まず、7時半ぐらいになりましたら会員が集まります。前にずっと座布団を引いて、まず、陣取り合戦から始まる。あと、向こうの廊下のほうもいっぱいなのです。

これは、一時、会場を変更してほしいという要望がありまして、ちょうど市長を囲む会の際に提案をさせていただいたことがございます。ですけど、いろんな面を考えていきますと、会場変更は厳しいということになりまして、また元のところに帰ったのですが、非常に皆さん楽しみにしておられる。1つは、お坊さんの講話がございまして、綾小路きみまろみたいな講演をするのです。笑わせるのです。この笑いが非常にいいのです。だから、毎年、そのお坊さんに頼んでいるのですが、「もうよかろう」と帰るときに言っておられましたが、「いや、来年もぜひお願いします」ということでお願いしております。非常に楽しみにしているシルバーまつりでございます。

これは、福祉施設を訪問しております。寿光園、ちくしの荘、天拝の園、むさし苑、この4つの施設を毎年理事14名がバスに乗りまして、友愛活動の一環として訪問しております。手土産にバナナを持っていっているのですが、バナナが一番利用しやすいからということで、バナナとタオルを持っていっておるのですが、非常に喜ばれます。

それから、これは平成26年1月8日、新春の集いですが、私たちの1年間は、この新

春の集いからずっと始まっていきますが、来賓の方が12、13名、毎年御出席をいただいて、それに理事14名、監事を入れて16名が出席をさせていただいています。

次、乾杯をいたしまして、もともと新年はめでたいですから、お謡いを歌うということになってずっと歴代やっていたのですが、今までの方が4、50年、その道のベテランでやっていたのですが、急遽このときは欠席をいたしまして、私がピンチヒッターでやっているのですが、まだ素人の謡曲で申しわけなかったのですが、そういう風景です。

それから、女性のお稽古事発表会、これが3月10日にやりました。これは、シルバーマつりの演芸の部だけを出したようなもので、このときは出品物はありません。演芸だけで、このときも非常に盛会です。これは女性だけしか出られません。女性の皆さんが日ごろ各地で練習しておられるお稽古事を一同に集めまして発表する。お互いの仲間、友愛、親睦を図るというものです。これは、生きがいくりの一環としてやっておりますが、毎年、この3月10日は37組、106名の方が出演していただきまして、340、350名の方が観客で、応援団で来ております。これがお稽古事です。このとき、ひよつとこが初めて出ました。これは、見ておられる応援団の皆さんです。

これは、戸田会長がうれしそうに盾を持っておられます。非常にありがたいことに皆様方の御協力により、最近投稿が非常に多いのです。私たちがつくっている「椿山」は当連合会唯一の広報誌なのですが、年に2回発行しております。最近長い読み物、この投稿が結構あります。それで紙面が非常に充実してまいりまして、コンクールは県老連主催で、各地区の連合会の広報誌を全部集めて、そこで優劣を決めるのですが、平成22年度は準優勝で、1年飛びまして、24年、25年も準優勝をいただきました。26年度、栄えある優勝をいただきまして非常に喜んでいる次第です。

この「椿山」を配りまして、できるだけ会員を増強していく一環としてお願いをしているわけですが、非常に好評で、よろこんでいるところです。

画面には載っていませんけれども、これ以外に私たちは大きな行事をしております。

1つは社会奉仕です。これは老人の日に全国一斉ごみゼロ運動というのをやります。9月15日から21日1週間、これが老人の日に全国指定されておまして、そのとき全国一斉ごみゼロ運動で、一斉に地域のごみゼロ運動をやります。今年の場合は9月20日前後に各単位クラブでやっていただくのですが、1270名の会員の方が参加して、ごみゼロ運動を実施いたしました。

それから、もう1つは歩け歩け運動です。これは健康増進のために非常に積極的に取り

組んでいるイベントなのですが、市老連として各地区老連でやっていただいておりますのが、5月の末日にウォーキングを一斉にやっていただきます。今年の場合は、883名が参加しました。非常にウォーキングも盛んになってきております。

今年は、11月9日に万葉の里ちくしのウォーキングを皆さんにお勧めして、130名以上の方々が申し込みを健康推進課にお願いしたのですが、雨で中止になりまして非常に残念だったのですが、できるだけ市のウォーキングのイベント、それから私たちのイベントにつきましては、皆さん方、積極的に参加していただくようお願いして、毎年、会員が増えているという状況です。

それから、地区の説明の中に出てくると思いますが、コイン募金というのをやっております。前は1円募金としていたのですが、今は消費税がアップして、1円が貴重品になりましたので、コインに変えまして、1円でも5円でも10円でも50円、何でもいい、とにかくコイン募金としてくださいということで、これは女性部の行事の一環として女性部が中心になって各単位クラブに働きかけてやっています。

それが、積もり積もって、市老連の特別会計に入ります。日本は災害が多いのですが、いろんな災害が出たときに、いちいち募金活動をやらなくて、そこから即出せるという体制を取っています。貴重な浄財ですから、これは義援金以外使わないということにして、義援金と赤い羽根募金、それだけに特定し、理事会の承認をもらってやっております。

今年、広島で大きな災害、義援金として9月に10万円、それから、赤い羽根募金として、10月に20万円、これは市の社協を通じまして、募金をさせていただきました。

そういう事故、天災があった場合には、即対応できる体制を整えておまして、これは平成18年度から実施して、要綱をつくって、今、9年間、これがずっと続いております。今後ともこれを継続してやっていくということです。

それから、最後になりますが、会員の一声運動というのがあります。これは会員が独居の方、それから老老介護をやっている方がありますが、その方々に一声をかけていく。私たちは老人会ですから、プライバシーの問題があるので入り込めないのですが、例えばチラシを配るときに、一声かけていって「お元気ですか」ということで、安否を確認するという一声運動をやっております。

そういうことで、私たちは、まず会員一人一人の健康づくり、生きがいくづくり、そこをベースにして、元気になった方は仲間の輪を広げて、それから地域の社会づくり、それに積極的に参加していく。これが老人会の基本でして、それに基づいてずっとこれからも活

動していきたいと思っております。簡単でございましたけど、以上、説明を終わります。

○（事務局） では、続きまして、美しが丘北地区いきいき会についてお願いします。

○（副会長） 古城戸です。よろしくお願いします。皆様お忙しい中、移動市長室懇談会に御出席いただき、まことにありがとうございました。では、美しが丘北いきいき会の1年間の行事をパワーポイントで説明させていただきます。

これは、昨年11月30日それから12月1日、2日間続けて、公民館文化祭、いわゆるお祭りをやっております。餅つきは今は子どもさんですが、主体は中学生にお願いしております。そして、餅の丸めだけを美しが丘北いきいき会の女性の方にしていただき、安く販売しました。ちょうどこの日は雨だったものですから、テントの中で皆が餅を丸めていたという状況です。

次、これは、忘年会です。どこも忘年会と新年会をおやりになっていると思います。忘年会と新年会は53名のうち大半の方が出席をいただいております。そういう状況を写しております。これは、忘年会のときの余興をやらせていただいております。こちら、赤い服を着てある方が、女性部副会長です。私のあとに会長になっていただくつもりで先のことを考えて、できれば会長も女性がいいじゃないかという気持ちで今は考えております。これは、忘年会のときの余興です。ピアノを弾く方が2人おられますので、1人の方が弾いて、それに合わせて合唱をやっているところです。

これは、新年会です。これもどこも一緒だと思います。新年会の余興のとき、皆さん手を挙げているのですが、そのときの状況を瞬間的に写真に撮っていただきました。

これは、3月は健康学級です。市包括支援センターからお二人お見えになって健康講座を、このときには元気な老後の過ごし方についての話がありました。これは血圧測定です。

これは、今年からいきいき会と自治会主催の旅行、合同でやるように決まりました。その第1回目が今年の3月に佐世保に旅行したところです。佐世保港の中の遊覧船に乗っての状況です。これは、護衛艦の中を見学させていただきました。

これは、歩け歩け運動で撮った写真です。このときは筑紫地区だけで942名の中の324人の方が参加していただいたところです。

これは、定期総会です。53名のうちの約50名近く参加をいただきました。これは、平成25年度の決算、それから活動実績、それから平成26年度の活動計画及び予算についての審議をしている状況を写しました。そのあと、会食をみんなですしている状況です。

これは、今年の6月に、今テレビでやっています軍師官兵衛の中津城を見学に行ったと

ころを全員で写したところです。これは、ホテルで食事に入る前に、今日の余興、その他についての説明をやっているところです。

これは、社会奉仕の一環として、私のほうは、公民館に非常に雑草、その他、草があるものですから、地区長からの要望があって、公民館の周辺の清掃を毎年40名近くでやっております。これは、最後に全員で写真を撮ったところです。

これは、健康学級をやっているところです。そのあと、運動サポーター指導員の方が2名お見えになって、レクリエーションのストレッチをやっているところです。非常に皆様、楽しんでやっている状況を撮らしていただきました。

これは、毎年7月は筑紫野警察署から御足労いただいて、交通安全についての説明を必ずやっております。これは、私も含めて歳ですから、同じことを何回繰り返しても忘れません。必ず同じことを毎年やっているような状態です。これだけは忘れないように、健康学級と交通安全について講習を必ずやるようにしております。

これは、7月にサマーフェスティバル、自治会主催ですが、これにいきいき会は、玩具と鶏飯とわたがしを売っています。売り上げを6万円近く上げて、老人会のいろいろな会費に使わせていただいております。やはり、補助金をもらうだけじゃなくて、自分たちで稼ぐんだという気持ちをつくるためにやっております。これは、サマーフェスティバルの舞台で皆さん踊っているところです。非常に皆さん元気に、この方確か90幾つかの方でした。65歳から92歳の方が出ていらっしゃいます。

これは、敬老会ですが、美しが丘北敬老会の場合は、88歳と77歳の方のお祝いをしております。敬老の集いを、いきいき会ではやらせていただいております。

これは、敬老の集いのときに、カラオケ愛好会の皆さんが必ず合唱していただいております。必ず、敬老会、その他の何か会があるたびに、カラオケ愛好会の方は皆さんでカラオケを発表してあるという状況をお知らせしております。

これは、先ほど事務局長から話がありましたが、コイン募金です。常時公民館の玄関入口に置いております。これは、いきいき会だけでなく、美しが丘の皆様にも募金していただくという意味合いで、月例会の受付、併せて常時公民館の入口に置いてあります。年間、大体1万円目標でやらせていただいて、大体その金額を達成しています。

これは、1年間を通して、防犯パトロールで、筑紫東小学校の下校時に必ずいきいき会の会員の方が何名かは見守りとして出ております。このことを写真に撮りました。

これは、先ほど話がありましたペタンク、早速会員として16名の方がペタンクの愛好

会に参加して、大体、毎週金曜日午後、美しが丘2号公園でペタンクの練習をやっているところの写真です。外でやることが、ほかの方に会員として入っていただく目的にもつながるかと思ってやっております。

これは、先ほど話がありましたように隈公園でグラウンドゴルフを月曜日と木曜日の午後、大体15名から20名程度参加して、練習に励んでいる状態を撮っております。

最後ですが、カラオケ愛好会、これは10年ほど続いているそうです。多いときで15名、今は確か12名だったと思うのですが、日曜日の午後來て、そしていろいろな行事のときにコーラスとして歌っていただいています。

以上がいきいき会の1年間の行事としてやっております。ありがとうございました。

- (事務局) 本田事務局長、古城戸会長、熱のこもった活動の御紹介、どうもありがとうございました。本当に手に取るように1年間の流れを理解することができました。

それで、連合会と美しが丘北の取り組みなど、今の説明で理解をさせていただいたのですけども、せっかく各地区6名、二日市東、二日市西、筑紫、山口、御笠、山家のそれぞれの会長が御出席をしていただいております。それぞれの取り組みを簡単にお話いただくと非常に助かります。二日市東地区の久保会長から、順によろしくお願いしますか。

- (副会長) 二日市東の久保です。ほとんど、今筑紫の会長、それから本田事務局長が報告されたような内容に沿った内容で地区の活動もやっております。

まず4月には総会をしまして、それから総会にのっとなって、5月に歩け歩け運動とか、市老連でゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会をやりますので、それに積極的に参加する。それから、9月には奉仕作業、これは全国一斉にやりますので、これも9月15日から20日の間にはかならずやってくださいということで、やっております。それから、1月には各単位クラブの会長と三役と新年会を催しております。大体、それが1年間の地区としての活動でございます。

そのほかには、各クラブで単位クラブごとにそれぞれの活動をやっておられますので、その補佐役をやっておるという次第です。

- (事務局) 続きまして、二日市西地区の宮原会長、お願いします。
- (副会長) 二日市西も大体同じ活動です。ただ、うちは11の単位クラブがありますけれども、会長同士の結びつきが非常に強くて、それが何かと言いますと、総会を泊まりがけで研修旅行を兼ねながらやっているということが1つあるのではないかと思います。とても仲がよくやっております。

毎月1回、二日市西地区の会長会、これは第2水曜日、それから偶数月に女性部長会をやっております。それぞれの活動内容を確認しながら進めているところです。それから、歩け歩け運動とか、グラウンドゴルフ大会は、今、言われたのと同じように、市老連の流れに沿って西地区だけの大会をやっておるところです。それから、1円玉募金も非常にたくさん集まりまして、年間10何万円ぐらい集まっておるといことです。以上です。

○（事務局） では、山口地区の大山会長、お願いします。

○（副会長） 山口地区も先ほどの発表がありましたようなことを各単位クラブに帰ってやっております。

山口は、単位ブロックは8ブロックありまして、年度はじめの会員数が514名です。

そういう中で一番力を入れているのは、市老連でいろいろ御指導をいただいておりますけども、会員の増強運動を今年からやっております、5カ年計画ということで、1単位クラブに最低2名の増員をしようということで活動を始めておりまして、ちなみに、私の針摺の単位クラブにおいては、昨日現在で数名の会員が増加になりました。

と言いますのは、山口地区で皆さん会長を寄ってもらってお話していく中で、会員増強は何をするかということ、地域に帰って公民館活動、あるいは地域の寄り合い、そういうのにできるだけ参加して、皆さんの地区とのかかわり合いを多く持って、その中から仲間を増やそうと。

先だって針摺で文化祭がございましたけども、その中でパンフレットを出したり、あるいはその場で会員を申し込んでもらいましょうということで説明書と申込書を備えて、老人クラブのコーナーを設けていただいて、活動状況の紹介をしたりというようなPRをやっております。そういう中で、先般の催しの中で3名その場所で会員を得ました。

なかなか効果があったと思っておりますが、こういうことを山口老連としては、毎月1回、単位ごとの会長に集まっていただいてお話を協議しながら、そういうことを交えて進めております。

その他もろもろの活動については、先ほど御紹介がありましたようなことをやっております。以上です。

○（事務局） 続きまして、御笠地区の市川会長、お願いします。

○（副会長） 私は4月から初めて、今までしていませんでしたけども急にさせられまして、いろいろ先輩の話を聞いたり、老人活動には私は参加してはいたけども、いろいろ考えまして、御笠地区老連はどうたるものであるかという組織の見直しをしていかなければ

いけないのではなかろうかと考え、組織を見直すために、まず各単位クラブの役員たちが1つの一枚岩になっていかないといけないということと同時に、女性部がどうも消極的であるというふうに考えました。今年から女性部を役員会に積極的に私は来ていただくように、必要なときは半強制的に役員会に出席してもらっています。

と申しますのは、数で言いますと、女性が3分の2、男性が3分の1の会員ぐらいしかいないのです。男は長生きしきらないから、男ばかりでいばっていたのじゃだめだ、女性をやっぱり立てな行かんという考えを私は根本的に持っておるわけです。そういうことで、現在、役員会では組織の見直し、そして来年度ははっきりした文章的にもそういうのをうたっていこうかと考えております。

今までの今年の活動内容と申しますのは、どの地区の方も同じことをやっております。御笠も当然しております。

そのほかに、御笠は運動会をずっと22回。22年前から御笠地区の老人クラブ運動会をしております。プログラムはいろいろありますが、その中に1つ加えるのが交通教室を筑紫野署の交通課の方から来てもらって、運動会のときに交通安全についてのお話をしてもらっておる、これは毎年のごとでございます。

それからもう1つ、私が考えましたのは、ゲートボール、グラウンドゴルフ、歩こう会でも、体を動かすことについては非常に活動を活発にしておりますが、頭のほうあまりされていない。やっぱり人は体を動かすけども、脳みそがしっかりしとかなきゃいけないわけです。ということで、頭のほうの勉強会もしたらどうかと思ひまして、では頭の勉強会で何をするかというと、小学校、中学校の足し算引き算の勉強じゃいけないのであるならば、特に今は黒田官兵衛が歴史ブームですので、歴史講座をしようと思ひ立ちました。

その歴史講座は、まず、筑紫野市の郷土史から始めていかないといけないということで、第1回でしたので、ざっとした御笠地区の伝説とか名勝を話しております。来年、日を重ねていけばどんどんそれが充実してくるのではなかろうかと思ひます。

そういうことで、運動会、歴史講座、これを重点と同時に体を動かす体育方面と3つの柱でいこうかと考えております。以上です。

○（事務局） 最後に、山家地区の藤原会長からお願いします。

○（副会長） 各単位の活動につきまして、すばらしい活動をされてあることは十分わかります。ただ、流れを申し上げたいと思ひます。以前は山家というのはすばらしい活動をしておったわけですが、8年ほど前から会員の入会がなく、また現状としましても、単



位それぞれが解散をしたような状況になりまして、私が長年やっている関係でもありますが、勉強不足の点もありましょうが、山家は福祉の関係がほかの地区よりも独特な組織になっておるわけです。市にある福祉が山家にもう1つあります。それで、私のようなものがそれに対して理解力がありませんけども、そういう面で、いろんな活動に対してちょっと進む状態が、我々の老人会としての活動ができない状況も多々あるわけです。

そういう中で、最終的に山家は昨年度までは3単位がありましたけど、2単位が昨年度で解散をいたしまして、最終的には山家中央だけが現在残って活動しておりますけども、ほかの単位からしますと、会員数も少なく約26人ほどの会員しかおりません。その中でいろいろな活動をしたいという気持ちはありますけども、それが、満足に行いができなくて現状の状態です。まず、山家をどのような状態に今後つくっていくかということに対しては、私のような力不足のところもありますので、まずは現状では確実な活動の内容というものができあがっておりません。

しかし、やはり老人会というのは、山家は昭和36年に老人会という肩書きのものが発足しております。そういう中で、長年老人会というのがある中で、現状の状態を考えてみますと、何が原因でそういう現状の形になったか、その点が私としてもまだわからない面もありますし、それだけの力不足で現状の状態にもなっておりますので、本当にほかの単位地区の皆さん方とともに100%の活動ができないことに対しましては、本当に申し訳なく思っております。

現状の報告からしますと、今、そのような状態でございますので、現在は1つの単位の26名で、まがりなりにも連合会の会員として活動を続けておりますけども、今後の問題に対しても、まだ十分私の頭の中には何も考えがつかない状態であります。その面だけを御報告いたします。以上です。

○（事務局） 各地区のいろんな活動状況、特徴的な活動、それからまたお困りになってある点がプラスして理解することができました。ここで活動紹介の報告は終わらせていただきます。皆様方が自分たちの生活、そして地域を味方にするため、活動に取り組まれている様子がよく理解することができました。本当にありがとうございました。

次は、要望と課題です。あらかじめ市の老人クラブ対象の関連施策ならびに高齢者支援策についての説明をしてほしい、多目的グラウンドの使用手続きの簡素化をしてほしい、それと、会員拡大への協力をしてほしい、そういった内容をいただいているところです。まず、戸田会長から、簡単に趣旨の説明をお願いします。

○（戸田会長） 市老連といたしましては、高齢者支援課を経由して要望として提出しておりますが、私から改めてまた申し上げたいと思います。

まず私、冒頭、健康、友愛、奉仕ということの3つの柱で運動を進めていることを申し上げます。何をやるにしても、健康でなければ何もできません。健康であるからこそ、こういう会合にも出席できるのですが、健康でなければ会合に出席は全くできません。そういうことで、まず私たちとしては、健康を重点的にいろいろ運動をしております。

それで、まず、多目的グラウンド、諸田グラウンド、これを有効に利用させていただいておるのですが、まず、この使用について簡単にできるような方法はないものだろうか。老人クラブといたしましては、諸田グラウンドを利用させていただいているのは、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ペタンク大会ということで、これも県老連主催で三大スポーツを中心としてやっておるのですが、まず、ウイークデーをメインとして老人クラブとしては交流をさせていただいております。

それで、利用するに当たって、申し込み等々にもう少し簡単にできないだろうかということ、鍵を借りに行って鍵を返すということに体育部の方が不便を感じているということがありますので、できるものであれば使用に当たっての手続きを担当の窓口等々で何か有効に活用できないだろうかと思っております。

それと、もう1点、これは私たち老人クラブ連合会としては最も大きな問題なのですが、ただいま全老連主催で、5カ年計画で100万人会員増強運動をしております。それで、まず県老連としては3万人、実増3万人増強ということです。単位クラブをずっと割っていきますと、筑紫野市の老人クラブでは600名ということです。単純に計算すると、今60ありますから、1つの単位クラブで2名増員するというのが至上命令だと。これは実増の2名ですから。まずは、皆さん方それぞれ、先ほども話しましたが、高齢化時代じゃなくて超高齢になっております。亡くなっていく方が結構多くて、単位クラブによっては亡くなっていく人以上に会員を増やさなくちゃならないという状態が、全老連、県老連でもそういうことになっております。

そういうことで、会員を増やすには、まず我々老人クラブだけでやっても限界があります。私たちいろいろ各行政機関、それと関係諸団体に御依頼を申し上げまして、まず、市老連といたしましては、広報活動として先ほどもお話しましたが、年2回「椿山」を発行しております。これで会員拡大についてのPR運動をやっておるのですが、それと、市当局に御協力をいただきまして、広報ちくしのを毎月2回、各家庭に配付しておりますが、

昨年度は年2回お願いをいたしまして、その中に掲載をしていただきました。

だから、これを今後もうちょっと充実して、筑紫野市全体の筑紫野市としての老人クラブの会員募集ということをしてPRしていきたいと思っています。簡単に600名の増員というのは、我々にとっては非常に難しいのです。これをいかに達成するかというのは、もうPR活動しかありません。私たちも各関係団体にはいろいろお願いをしておりますが、まず市の行政当局に対して、月2回発行しております広報紙を有効にもう少し活用させていただけたらと思っておりますので、その点を御理解いただきまして御回答をお願いしたいと思っております。以上です。

- （事務局） 多目的グラウンドの使用手続きの簡素化と会員拡大の協力、それともう一つ、老人クラブ対象関連の施策と高齢者支援策についての説明も含めて合計3点の御要望ということをご事前にお寄せいただいていたところですので。3点について、一定の見解、回答のお話をさせていただきます。

まずは、市の老人クラブの対象の関連施策ならびに高齢者支援策等をまとめてさせていただきます。藤田市長と担当部長の中村がお話をさせていただきます。

- （藤田市長） それでは、今年度の予算の概要を説明させていただいて、その後、中村から質問の内容に触れさせていただきたいと思っておりますので、ご了解いただきたいと思います。

今年度の予算の概要ですが、その中で一番大きな割合を占めているオレンジ色は民生費、子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるものです。予算の40.2%を占め、その額は、約130億1千万円です。

次に、灰色は総務費、行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使われ、予算額は約34億3千万円、全体の10.6%を占めています。

次に、紫色は土木費、道路や公園などの補修や建設に使われ、予算額は約33億7千万円、全体の10.4%を占めています。

次に、緑色は公債費、市の借金を返済するもので、予算額は約32億1千万円、全体の9.9%を占めています。

次に、桃色は衛生費、健康診断や予防接種、ごみの処理などに使われ、予算額は約30億1千万円、全体の9.3%を占めています。

次に、黄色は教育費、教育や文化・スポーツなどに使われ、予算額は約29億6千万円、全体の9.2%を占めています。

最後に、水色のその他は、議会や農業・商工業、消防などに使われる予算で約33億

7千万円、全体の10.4%です。

一般会計の予算総額は約323億7千万円となっております。これらが平成26年度の一般会計の歳出予算でございます。

次に、高齢者に関する主な施策についてですが、全国的に高齢化が進み、市の高齢化率も本年4月で21.03%から10月には21.47%となりまして、戸田会長がおっしゃいますように高齢化が超高齢化になったという時代を現在過ごしております。そうしたなか、高齢者が元気で生き甲斐をもって暮らせるまちづくりが必要です。「生き甲斐作りとは何なのか」というところを常に意識し、「長生きしてよかった」と思っていただけのような、そういった施策を考えていかなければならないと思っているところであります。

それでは、個々の施策・事業につきましては、健康福祉部長からこれから先説明をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

○（中村健康福祉部長） それでは続けさせていただきます。高齢者支援策になりますけれども、最初が、「老人クラブ活動助成事業」、予算額は489万7千円です。単位老人クラブおよび老人クラブ連合会の活動に対する助成金です。シルバーまつり助成金、研修助成金、グラウンドゴルフ大会等助成金も含まれています。

次に、「敬老の日事業」、予算額は1447万8千円です。敬老の日に、3千円から2万円の範囲で敬老祝い金を支給しています。

次に、「敬老会運営費助成金」、予算額は2448万5千円です。敬老の日に各行政区で実施される敬老会に対し、75歳以上の市民一人当たり2400円を助成しています。

次に、「民生委員・児童委員」です。厚生労働大臣から委嘱を受けた民間の奉仕者である民生委員・児童委員は地域の最も身近な中で見守り活動や相談支援活動を行っています。よりきめ細かな相談ができるよう県に要請し、世帯数が多い地区等に平成25年12月に11名の増員をしたところです。

次に、「包括的・継続的ケアマネジメント支援事業」、予算額は、8866万1千円です。高齢者が、住み慣れた地域で生活し続けることができるよう、介護予防および介護予防サービスの提供を推進するため、介護、健康、福祉、虐待防止、権利擁護など、高齢者の暮らしにかかわるさまざまな支援を行う地域包括支援センターの運営事業です。市内に4カ所の地域包括支援センターを指定し、業務を委託しています。

次に、「見守り活動に関する協定締結」です。福岡県の「見守りネットふくおか」を活用し、各家庭を訪問する機会が多い生活関連事業者が、ひとり暮らしの高齢者などの異変

を察知した場合に、市や警察へ通報するものです。

次に、「徘徊模擬訓練」です。高齢者が行方不明になったことを想定して、地域や行政の連絡体制を確かめ、警察への連絡や高齢者への声かけの仕方などを訓練するものです。今年度は御笠地域や青色パトロール隊の実施を支援しました。

次に、「食の自立支援事業」、予算額は121万7千3百円です。ひとり暮らしの高齢者世帯に、毎日、夕食を配達し食生活の改善と安否の確認を行う事業で、社会福祉協議会に委託しています。

次に、「緊急通報システム事業」、予算額は57万5千3百円です。一人暮らしの高齢者の住居に緊急通報装置を貸与し、緊急時の対応と日常的な安否確認を行うシステムの委託料です。

次に、「在宅医療支援ネットワーク事業」です。ガンや難病など医療依存度の高い人が、安心して在宅療養できるサービス体制を整備するため、在宅療養に係わる団体が協力して、医療・看護・介護の連携推進に取り組んでいます。

次に、「もの忘れ相談事業」、予算額は6万円です。認知症の早期発見と早期治療のため、認知症の疑いがある人やその家族の悩みを聞き、適切な診断と治療が受けられる体制をとります。筑紫医師会と協定を結び、市内に12人の相談医がいます。

次に、「ちくしの高年大学事業」、予算額は107万9千円です。60歳以上の市民を対象にした、教養講座、クラブ活動、ボランティア活動、社会参加活動等を実施する際の講師謝金です。

次に、「高齢者健康学級」です。健康の保持増進のため、介護予防や健康づくりの知識を身につけていただく場として、老人クラブでレクリエーションを取り入れた高齢者健康学級を実施しています。

次に、「シルバー人材センター助成事業」、予算額は80万1千8百円です。高齢者の雇用機会を提供するため、二日市地区・筑紫地区の主要幹線道路の美化作業とゴミの処分をシルバー人材センターに委託しています。

次に、「御前湯高齢者入湯料割引負担金」、予算額は780万円です。高齢者の福祉の増進と介護予防を図るため、武蔵財産区以外の65歳以上の市民の御前湯入湯料200円について半額100円を市が負担しています。

次に、「老人福祉センター運営事業」、高齢者の福祉の増進と介護予防を図るため、入浴・娯楽等のサービス提供を行う老人福祉センターの運営を社会福祉協議会に委託してい

ます。

最後に、「高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画策定事業」、予算額は538万7千円です。高齢者のニーズに応じたサービス供給体制を確保するため、平成27年度から29年度の介護保険および高齢者福祉施策にかかる計画を策定します。

簡単でございましたが、以上で、平成26年度予算、そして老人クラブ関連施策ならびに高齢者支援に関する事業についての説明を終わらせていただきます。いろいろな事業がございますが、皆さまのご協力をお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

○（事務局） 続きまして、2点目の多目的グラウンドの使用手続きの簡素化について回答をさせていただきます。

○（中村健康福祉部長） 多目的グラウンド、諸田グラウンドと九州森永乳業跡地がございますけれども、使用手続きの簡素化のご要望についてご回答させていただきます。

まず、現状をご説明いたします。市老連の皆様には、平成25年度に20回、平成26年度もこれまでに17回と、特に春と秋に諸田の多目的グラウンドを多くご利用いただいております。今年オープンしました九州森永乳業跡地も、すでに4回ご利用いただいております。感謝申し上げます。

多目的グラウンドは、県の所有であり、毎年県から使用許可をいただいて、一般に開放しています。使用申請につきましては、最寄りの勤労青少年ホームで行っていただき、利用日当日に鍵をお渡ししています。

九州森永乳業跡地につきましては、土地開発公社からスポーツ振興課が借用し、管理運営しているところです。使用申請につきましては、最寄りの生涯学習センター内にごきますスポーツ振興課で行っていただき、利用日当日に鍵をお渡ししているというのが現状でございます。

どちらも、市が所有するものではございませんので、使用につきましては、市が責任を持って管理する義務がございます。したがって、ご要望にございました手続きが無く自由に使えるようにしたり、鍵を特定の団体にお貸ししたりすることは、ご要望にお応えできないのが現状です。ただ、カミーリヤでの利用手続きや鍵の受け渡しについては、利用者の利便性の視点から今後検討してまいりたいと思っております。

○（副会長） その件についてですが、今、諸田は奇数月の第2金曜日に利用者の調整会議がっております。ウィークデーはほとんど空いているのです。一括して全部使うような大きなイベントをするときは調整会議に行ってから押さえていただいて、あとは空いてい

るのだから、近くの単位クラブで練習にちょっと使いたいというようなときは、いちいち農トレに行って、調整会議出られなくても、いつ空いておるかということ、それをカミーリヤで確認できるようにしてもらえれば、受け渡しができるのです。

カミーリヤでそれができるようになれば、9時から使うにしてもカミーリヤに行ってすぐ開けて、終わりましたと返すことができる。そうでないと、これを9時から練習しませんが、農トレまで9時から鍵を取りに行って、今度は9時半になって、そうすると、今度終わってからまた向こうまで返す。単位クラブとかで練習するときは、できるだけ車を使わないで、近くの人歩いて来るような状態だから、カミーリヤにそういう鍵を管理させていただければ、利便性はいいのじゃないかと。

大きなイベントがあるときは、こことここはどうだろうかそこで確認できれば、何日はこういうあれがあるから練習できません。なら、何日何時からしますと、近くの単位クラブなんかで練習するときはそれができるのじゃないか。

それは、上古賀のグラウンドでも、諸田のグラウンドでもそれが言えるのじゃないか。

森永はほとんど使っているところをあまり見ないから、行けば、学習センターまで行くしか、近くにないから。そうすると上古賀は、今どこで鍵を管理してあるのでしょうか。

○（藤田市長） 上古賀の場合はスポーツ振興課が管理しています、生涯学習センターで。それから森永の場合もスポーツ振興課ですね。

○（副会長） それで、上古賀は近くにないから、行くしかないと思うけど。

○（藤田市長） カミーリヤの前のグラウンドは、市老連の幹部会の懇談会を何回かやっていただいでいて、このような大掛かりな移動市長室としての懇談会は初めてですが、平成24年度のときにカミーリヤの前のグラウンドを3面だったのを4面にしてくださいという要望がございました。これは、平成26年度からその4面を使えるようにしています。

しかし、使用について、今、久保さんがおっしゃったように、カミーリヤで受け渡しができるようにというのは、これから協議しないと、いますぐそれを変えるということが、さっきも中村が言いましたように、県の所有地で毎年更新して契約をしている。その契約をする中で、こういうふうな形で市が管理して使用をさせますというところまでちゃんと出しているので、そこを変更しなくちゃいけません。県との協議もちょっとしなくちゃいけない段階ですので、これから協議をして、なるだけ御要望に応じていくように努力していきますということで、御回答にさせていただきたいと思います。

○（副会長） 単位クラブで練習するときも、やっぱり調整会議に出てきているわけです。

そうでないと利用状況がわからないから。そうしたら、ほとんどウイークデーが空いておるから言ったらすぐ取れる。そうすると、わざわざ調整会議に来なくても、そこで確認できて、ここ今空いているから使わせてもらいますということができないかということです。

市老連全体で使うときとか地区で使うときは広い範囲で使うから、調整会議で取る必要があるかもしれないけど、単位クラブあたりでは、ちょっと2時間ほど練習しようかというときに、いちいち調整会議で、いつといつにしますということをしなくてもできるような状態にならないかなということです。

○（藤田市長） そのことはちゃんと承って帰り、回答は後日ということをお願いします。

○（事務局） 続きまして、会員拡大の協力の要請の件にまいらせていただきます。

○（中村健康福祉部長） 老人クラブ連合会の会員拡大に向けてのご回答ですけれども、本日の活動紹介の中でも本田事務局長からお話がありましたように、全国的に老人クラブ会員が平成22年度の約710万人から平成25年度の約650万人へと減少している中で、筑紫野市におきましても平成22年度に64クラブの3517人の会員がいらっしやったのが平成26年度では60クラブの3209人と4年で約300人減少ということです。

全国老人クラブ連合会で平成26年度から5年間を老人クラブ100万会員増強運動として会員拡大に取り組んでいるということで、筑紫野市老人クラブ連合会におかれましても600人の会員拡大に取り組んでおられるということです。

平成25年度に会長がおっしゃったように広報ちくしのに会員募集の記事を掲載させていただいたのですが、減少抑止には結びつかなかったということになりました。

この原因としては、団塊の世代の退職とともに地域貢献のあり方が多様化したため老人クラブに入らずとも地域活動が行える環境になったこと、更に老人クラブの活動内容を周知する機会が少なく、住民に活動の真意が伝わっていないためだと考えられております。

このままでは会の今後に影響を与えかねない状況でありますので、会員拡大の取組みにつきましても、早急に対策を講じる必要があると私どもも課題として認識しております。

市としましては、市広報やホームページ、また今ソーシャル・メディアというのがあるので、会員募集の記事を掲載するだけではなくて、活動内容が広く市民に伝わるような啓発記事を老人クラブ連合会の皆様と一緒に作っていきたいと考えております。それが会員拡大の一助になればと思っておりますので、ご協力よろしくをお願いします。

○（戸田会長） 何かと御迷惑はかけるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○（事務局） あらかじめ用意させていただきました3点の要望、課題については、これで



終わらせていただき、このまま意見交換の場に変わりたいと思っております。

本日の参加者の中で、日ごろの老人クラブの活動、そしてまた、地域の活動において、藤田市長に直接聞いてみたいとか、何か意見を言ってみてみたいといった方がいらっしゃれば、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○（専門部員） 関連でございますが、2点、要望なり質問をさせていただきます。

まず1点目は、御笠にある御笠グラウンドにつきましての借用を、例えば、御笠地区の行事をするときの年間計画書、来年の分をつくりましますから、その分についての借用を一括申し込みして、1カ月前で受付してあるのを変更することができないのか。

それともう1点は、先ほど問題になりました老人クラブの減少対策につきましてですが、老人クラブの魅力ある活動をするのはもちろんですが、転入者、その他、独居老人の家庭を民生委員による訪問を行っておられると思うのですが、その際に、1人でさみしく家の中にいるよりか、老人クラブの中に入って、和気あいあいと楽しい老後を過ごしていただくという案内を民生委員の方にお願ひできないか、その2点をよろしくお願ひします。

○（藤田市長） 御笠グラウンドの件は計画書を出していただいた段階で協議してみたいと思ひます。今のところ、どのくらいのスペース、どのくらいの空きがあるかというのはこちらのほうで今現在把握できていません。だから、計画書を出してみてください。

○（専門部員） それでは、平成27年度の1年分の計画書を提出するというところで。

○（副会長） こういうことです。総会のときに年間の事業計画は何月何日は何をすると、できているわけです。そして、使用するグラウンドはどこのグラウンドを借りるということはわかっているわけです。それを一括して年間計画として農業者トレーニングセンターの窓口に出す。出しておけば、それは事務局のほうでちゃんとその日を押さえてもらっておかないと具合が悪い。1カ月前でないとはだめですとあって、こっちもうっかりして1カ月前が15日前になったりすると、「もうだめです、先着があったから」。こういうことが何回かうちのほうは今年あっております。

1年間の事業計画に基づいて押さえることができないかということ、うちの体育部長が言っておるのです。それは、何も老人クラブだけに限らないと思ひます。子ども会やいろんな何かの会があります。そういう人の年間の事業計画一覧表なりを提示せよというように提示させておいて、出てきたものについては、1年間の365日押さえてもらえば、そうトラブルは起こらないのじゃなかろうかと思ひますが。

○（理事） コミュニティセンターの場合は、3月時点で各使用する団体がちゃんと年間行

事計画を出しまして、そこでチェックされます。

今おっしゃった諸田のグラウンドとか、御笠のグラウンド、あれも、そういう時点で年度計画を立てたものを一斉に提出して、そこで市のほうでももらえないですかということですね。そうしないと、全体的なものをどこのグラウンドでも一括はできないと思うのです。各地区で、コミセンはコミセンでまとめているように、諸田のグラウンドは諸田のグラウンド、担当の中で年間計画書を出して、その中で確実な団体の計画は入れてもらう。それから、御笠のグラウンドもそういうふうなことではできるのじゃないかと思うのです。

年度末、3月の時点で、次年度の計画書ができますから、その時点ではっきり出してもらって会議をする。コミセンの場合はピシャっとできるのです。だから、市でもそういうポジションにおいてはできるのじゃないかと思います。

○（本田事務局長） これですね、御笠地区だけが運動会をやっているのです。それで、グラウンドの借用については、本来であれば、老人会が使いますので、本当は市老連の事務局でそれを事前に計画いただいて、事務局から窓口であります高齢者支援課を通じてお願いするという形をとっていくと、非常に事務的です。今、恐らくこちらを通っていませんので、直接お願いしているのじゃないかと思います。

○（理事） やっぱり事務局通したほうがいいですね。

○（本田事務局長） 老人クラブの活動の一環ですから、やっぱり事務局のほうに言っていただいて、事務局から正式にお願いするという形をとって、できるだけ事前に、余裕を持って、1年間の日にちが決まっていますので、それをしていけば検討していただける時間があるのじゃないかと思いますが。

○（藤田市長） 福住さんが言われたことで、計画書を出してくださいということは言いましたが、市川さんがまたそのあと言われたのですが、これは体育協会というのがありまして、そこが指定管理者制度になっていて、そこが全部管理しているのですね。

そこで協議をやって、公平に皆さん方に使ってもらうような施策をしている。だから、私、今内容がどのくらいのスペースがあるかわかりませんというのは、体育協会が全部管理しているのです。指定管理者制度ですから、そこに市は委託しているのです。

だから、やっぱり計画を出していただいて、そこで協議をしていただくという形にならないといけませんので、それが、おっしゃっていただいたように事務局のほうで処理してまとめていただいて出していただきますと、体協のほうで協議して返事ができるという形になると思います。

- （理事） わかりました。
- （本田事務局長） できるだけ、そういうふうにして、組織から組織、正式にお願いするという形を取らせていただきたいと思います。
- （戸田会長） それで、先ほど本田事務局長が言ったように、結局これは老人クラブ全体のもので、各地区がそれぞれ出してもあれですから、要するに市老連の行事の一環ですから、全部老人クラブの活動については事務局を経由して、市のほうに提出するというところにいたしますので、そういうことで、皆さん方も事務局のほうに出してください。そして、こちらのほうで一括して市のほうに申し出て対応するというのでやりますので、そういうことでよろしく願いしておきたいと思います。
- （事務局） グラウンドの件はそう言ったことでよろしく願いしたいと思います。
- （単位クラブ会計） 各老人会の活動はすごく参考になりましたし、活発に行われていることはよくわかりましたけども、私ども宮田町の老人会は、もう30年近く円滑にやってきたわけですが、区長が宮田町公民館の使用を禁止するというので、老人会に通告してきたわけですが、それ以後、1年余り公民館を使っておりません。老人会は非常に困っております。そのことを市長は御存じでしょうかと思ひまして。
- （藤田市長） その件は存じ上げております。それで、いろいろと仲介の労を取っていただくような施策も講じておりますが、何せ司法の手にかかっている、委ねられた問題でもありますので、なかなか市が関与できない部分という状況にもなっております。何とか市の中で町内の中で町内の事件として解決をお願いしたい、こういう見解を持っております。
- （専門部員） 先ほどから老人クラブの増強運動というお話がありましたけど、私も民生委員協議会あるいは理事会のお仕事をさせていただきましたけれども、その中で感じたことは、老人会になって思ったことは、老人会という単位の中で増強したり、入りませんかとか、こんなことじゃなくて、やっぱり民生委員とか、町の協議会、自治会、一緒になってお年寄りを囲みながら、努めていかなきゃならないだろうと。

というのは、確かにどんどん若い世代が歳をとっていってしまいますけど、ただ、私はまだ老人会に入りたくない、そんなに年を取っておらん、そういう意識が物すごく強いのです。だから、もうちょっとと言いながら、ところが70歳ぐらいになると、徐々にやる気とか、そういうものもなくなってきて、もう面倒くさいことはしたくないという性質が体の中に染みついてくるのです。こういったことで入ろうとしても入っても何もできない。

だから、やっぱり若いときからある程度の、60歳、65歳になったときから、やはり

何かしよう、みんなでやろうという、そういう自治会の中に、例えば民生委員会を含めて、ふれあいサロン、いきいきサロンがあるわけです。その中に老人会も一緒に入りながら囲いながらやっていくという、そういうスタンスを取らないと、とにかく老人会だけでは声をかけて入ってくれと言ったのじゃ、やっぱり難しいのではないかと思います。

- （理事） 先ほど、うちの山家の会長が申しあげましたように、皆さん方、この名簿をごらんになって、山家はたった1つのクラブしかございません。人数も26名です。これで何とか細々とやっておりますが、いつ事切れるかわからない状態なのです。本当に断末魔というのですかね。

私は、筑紫から山家に行きました渡り鳥でして、行って見て、やはりここはちょっと違うということが一番感じたのです。一番初めに行ったときが「山家は山家でちゃんとやっていくルールがあるから、よそ者には役員は持たせない」って、これが1つのルールだったみたいです。そういう風習がずっとあるみたいで。それじゃなかなか、過疎地区でもあるし、発展もしないし、これじゃいけない、何とかやっぱり、この1つだけでもかろうじて続けておりますけれども、これを絶やさないようにやっていきたい。

会長も御老体で、いろいろ問題を抱えていらっしゃるって本当に気の毒でやってもらっております。だから、市長も何とか応援してみてください。地区がいろいろ飛び跳ねておりますけれども、その中で何かお願いしていただいたらいいのじゃないかと思っております。

これじゃ、本当によそに行って恥ずかしい思いをするのです。筑紫におったときは、こういう状態はございませんでした。ここは何ということだろうかと、自分で本当に思いました。何とか御助力お願いいたします。皆さん方もどうぞ助けてくださいませ。お願いいたします。

- （副会長） ちょっと補足します。今、婦人部長から状況をお話しましたが、現在の山家は申しあげましたように、1単位でやっとならしている状態。ただし、8年前の当時は、すばらしい山家の老人会だったのです。筑紫野市の中では、やはり数の中に入っておったのじゃないでしょうか。活動面に対してはすばらしい活動をやっておったわけです。

それが、西山のほうが交通の便が悪くなり、高齢者が多い、若い人が入ってこない、そういう関係で8年前に3単位が解散をしたわけです。それは、やむを得ず我々は受け入れて、そのあと残りの山家中央、山家9区、山家6区、これが3単位で昨年度まではやっておりましたけれども、やはり高齢者ばかりで、新しい若い人が入ってこないわけです。

そういう中で、現状は1単位になりましたけど、私の勉強不足か、また、それだけの能

力がないかもしれませんが、まず、私がちょっと不審に思うのは、市のほうに福祉がありながら、山家が単独に福祉というのは、どうもその点が合点がいきません。福祉というのは、市のほうであれば、連絡事項が回ってくれば、それは各地区が受け入れをして、やれるはずですが、山家は単独に福祉というものが、名目があるわけです。その辺をどうも私のようなものからしますと不審でたまりません。

そして、動く範囲内がいきいきサロンというのでできておりますけど、これも私の考え方が悪いかもしれませんが、老人会、名前が嫌い、それから年齢がどうのという人もおります。しかし、やはりいきいきサロンに入っている方もいずれは我々と同じ年齢にはなるわけです。年を取らなければ、先ほど言ったような私たちだけはという考えでしょうけど、私たちから考えますと、いずれは私たちと同じ年になるのじゃないかと。ならば積極的に老人会に加入という頭がなぜ起こらんかと。いきいきサロンでは、すばらしい活動をしているかと言いますと、内面はそうじゃありません。ほとんど子どもの手遊びみたいな状態。そういうので1つの活動の組織として動くのは、どうも不審でたまりません。

今、申し上げておりますけども、自分の勉強不足、それと能力、私個人はありませんから、その点は恥ずかしいと思いながら、ちょっと一言、婦人部長からお話がありましたから、私も沿えて、私の考えを申し上げますけど、山家はそういう状況の中です。

○（本田事務局長） いずれにしましても、各地区連とも問題点、課題を抱えながらやっているのが事実です。

それで問題は、私たちのこの老人クラブをとにかく活性化して、メンバーを増やしていけば、これは地域の活性化のいわゆる起爆剤になっていくわけです。だから、どうしてもこの老人会の会員を拡大していかなきゃいけません。

そのためには、私たち内部だけの運動じゃ限界がきているのです。だから、今お願いしましたように、市のほうにも、それから地区の各種団体にも、それから区にも公民館にもそれぞれお願いして、老人会に入っていない人たちへのPR活動、これを今後どういうふうにしてやっていくかというのが問題になります。

県老連も事務局長会議はその問題ばかり出るのです。だから、これからの方向としては、私たちも老人会内部だけに目を向けずに、外に向かって、行政のお力を借りる、あるいは地域でほかの団体に力を借りながら、老人会を活性化していこうという趣旨ですので、それぞれ現在、悩みやら問題点はありますが、そういうことで、取り組みは積極的に前向きに取り組んでいこうという姿勢ですので、その点、御理解いただきたいと思います。

○（事務局） 最後、本田事務局長からまとめていただきました。ありがとうございます。

それでは、懇談会の最後に藤田市長が皆様方に改めてお礼の御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 今日市老連の移動市長室に、このようにたくさんの方がご参加いただくなかで、非常に活発な、また、いろいろ有意義なお話を聞かせていただくことができ、大変ありがたく思っております。

非常に印象に残りましたのは、平均寿命は延びているけど、健康寿命を延ばそうとおっしゃった戸田会長の言葉、これをやっぱり真摯に受けとめながら、市の施策の推進にあたっていかななくてはならないと思っております。

最後の方で感じましたのは、岩佐美しが丘南の老人クラブ会長がおっしゃられましたように、民生委員・児童委員の会長を長くされた方でいらっしゃいますけども、そういうふうなところに働きをかけて、今、本田事務局長もおっしゃいましたように、他団体にも呼びかけながら、老人クラブの声だけではなくて、そういうところとやっぱり力を合わせてやっていけば、伸びるところがあるのではないかというのは、これは一つの提案だろうと思っております。我々もそういう諸団体と会合をするときがありますので、ぜひ今日のよな声を届けてみたいと思っております。

それから、山家の藤原会長を初め山家の皆さん方は、単体になって困っていると、市のほうが福祉があって、山家があってというのではなくて、これは一体としたものです。それで、今おっしゃった中でコミュニティ自治というのを進めております。山家が1番目です。御笠が2番目、3、4、5と7館まで作るようなコミュニティの活動をしておりますが、その中の一環として山家のほうが先行していますので、福祉が目立っているのだらうと思えますけど、決して山家だけを独立している問題ではないと思っておりますが、そのところは、藤原会長、それから小野女性部長のおっしゃったことは、真摯に受けとめた中で市としても考えを進めていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

本当に皆さん、長時間に渡って、移動市長室にご協力いただき、貴重なご意見をいただきましたこと、我々今日執行部揃っておりますけど、持ち帰りまして、市の施策運営に取り込んでいくなかで、皆さん方のご要望を前に進めていきたいとこのように思っております。どうぞ今後とも戸田会長を中心とした皆様方の市老連がますます発展してまいりますように心からご祈念を申し上げまして、意を尽くしますが、今日の移動市長室のお礼の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。